すみれ乳児院だより 102 号

2026 年 10 月 1 日発行
大阪市旭区新森 7 丁目 8−16
発行責任者　施設長　菅野由美子



～ひろがる輪（わ）・和（わ）・話（わ）～
「寄り添う力」をつなぎ、こどもと家族を支え地域と未来を拓く!!

澄みわたる空に涼しい風、虫の音が心地よく感じられる季節となりました。秋は、見つけたり拾ったり集めたりすることが大好きなこどもたちにとって絶好の季節です。自然との触れ合いを通して色々な発見をし、伝えてくれます。こどもたち一人ひとりの小さな気づきに寄り添って一緒に喜び合い、共感する。そんな日常を大切にしていきたいです。

すみれ乳児院では、支援の中での振り返りや研修での学びなど語り合う場がたくさんあり、より良い支援にいかしています。数ヶ月をかけ、すみれ乳児院で大切にしたいことを職員で話し合い、「めざすもの」を考えました。決定した「めざすもの（スローガン）」が表題の言葉です。私たちは、こどもたちを中心に保護者、職員、地域との輪と和と話をひろげ、「寄り添う力」をつないで支えていく存在でありたいと願っています。また、地域のみなさまと一緒に安心して笑顔で過ごせる未来を拓いていく施設でありたいと思っています。

旭区の子育て支援機関、団体が連携する『あさひ子育て安心ネットワーク』会議に参加し、「子どもと子育て世帯を孤立させない地域づくり」についての実践事例を伺いました。その中で、地域にある力をつないでいくことの大切さを感じ、今ある地域の組織、団体とつながりを持つことから始めています。地域のネットワークが機能できるよう、一歩ずつ前に進めていけたらと思います。

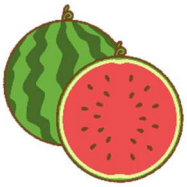
８月には旭区民ギャラリーで「へいわっていいな展」がおこなわれ、地域の保育園のこどもたちやすみれ乳児院のこどもたちの作品が展示されました。手形や似顔絵、生き物など、大切な命、心、想いが表現され、平和の大切さが伝わってきました。そして私たちの「めざすもの」の実現は、平和があってこそです。こどもたちがこれから歩んでいく未来へ、平和をつないでいきたいと強く思います。

すみれ乳児院 副施設長　梅本

～へいわっていいな展～　乳児院のこどもたちの作品



ひとり一人の大切な命
みんなの手が集まって咲かせた大きな桜の木



すいかポンチパーティー



おやつの時にすいかポンチパーティーをしました。

大きなスイカを半分に切った器に、すいか・みかん・もも・バナナとたくさんのフルーツが入っているのを見て「わぁ～、いっぱいはいってる」「すいかがいっぱいや」と大喜びでした。職員も一緒に食べて、「すいかおいしいなぁ」「すっごくあまいなぁ」と言いながら美味しいものを共有しました。おかわりもして最後の方は「このままたべたい」と月齢の大きい子はスイカの器から自分ですくって食べていました。

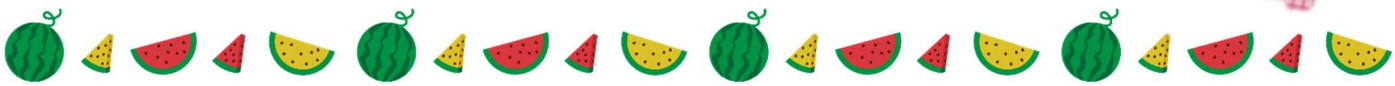
旬のものを思いっきり食べて、暑い夏も乗り越えられました!!

ももグループ　中原











乳児院のお仕事
～里親支援専門相談員～



里親支援専門相談員の主な役割は、乳児院で生活する子どもが、安心して家庭的な環境（里親さん宅）へ移ることができるように支援することです。

乳児院にいる子どもたちは、まだ自分の気持ちを十分に言葉で伝えることができません。そこで、表情や行動、生活リズムなどから子どもの気持ちを汲み取り、その思いを里親さんに伝えます。子どもが「この人に甘えていいんだ」「この人は自分のことを大切にしてくれる」と感じられるように、子どもと里親さんをつなぐ橋渡しをしています。

里親さんと一緒に暮らすことで、子どもは「自分のことをよく見てくれる大人がいる」と感じることができます。毎日一緒にご飯を食べたり、眠ったり、遊んだりする中で愛情を感じ、「みてみて、できたよ！」という喜びをその場で一緒に分かち合うことで、安心して新しい事に挑戦することができます。乳児院から巣立った子どもが里親さん宅でいきいきと成長しているのを見ると、本当に良かったなといつも胸が熱くなります。

そして何より嬉しいのは、里親さんが子どものことを「家族」と思ってくれることです。子どもにとって、「自分を待っていてくれる人がいる」「ここにいていいんだ」と思える居場所があることは、かけがえのないことだと思います。

里親支援専門相談員　松原

子どもたちの様子

今年の夏も、うだるような暑さが続きましたが、子どもたちは暑さに負けることなく、連日のように各階のベランダや屋上で水遊びを楽しみました。きいろグループの子どもたちにはリュック型の水鉄砲が大人気でした。どうすればタンクにたくさんの水を入れられるのか、どうすれば上手に的に当てられるのか、試行錯誤しながら遊んでいる子どもたち。毎日の遊びの中からもたくさんのことを学んでいるのだなと感心した一幕でした。きいろグループには小さな赤ちゃんも一緒に生活しています。首の坐った赤ちゃんたちも水着を着て水遊びに参加し、初めての夏の遊びを満喫していました。

きいろグループ　細川







「母と子の教室 ぎゅっと(にこにこ)らんど」

すみれ乳児院では、49 年前から「母と子の教室ぎゅっと(にこにこ)らんど」を開催しています。地域の親子へ向けての取り組みで、乳児院を広く知ってもらうことや地域で子育てしている家庭の応援をしたいという目的から始まりました。始めた当初は子どもを保育している間に母らへ向けたプログラムが主でしたが、年々ニーズが変化してきたことやコロナ禍を経て「遊び場の提供」として母子で参加してもらう形になりました。旭区に引っ越してきて 10 年、すみれ乳児院を少しずつ知ってもらえるようになり、ぎゅっと(にこにこ)らんどに参加してくださる家庭が増えてきました。

今年度は 8 回の開催を予定しており、そのうち 2 回は当初のように母と子が別の場所で取り組みを行えるように計画しました。7 月には、子は水遊びをし、母は手作り玩具作りをしました。離れることは母子ともに不安があったと思いますが、自分のペースで作業をしながら、飲み物を飲みつつ母同士で会話が弾み、少しほっと一息つける時間になったのではないかと思います。このような取り組みを通してすみれ乳児院を更に知ってもらえるように、そして地域のニーズに応えらえるようにこれからも色々な取り組みを発信していきます。

地域福祉担当　前口





いただきま～す！

☆フライドスイートポテト☆　外はカリッ、中はフワッ　さつまいものフライドポテトです。



【材料】
- さつま芋…200ｇ（中１本）
- 小麦粉…大さじ1
- 片栗粉…小さじ1
- 塩…少々
- 揚げ油…適量（さつま芋がちょうど浸るくらい）



【作り方】
①さつま芋はよく洗ってから、皮ごと細長い棒状になるようにカットする。
　（カットサイズは太めにするとホクホク感が増し、細目にするとカリカリ感が増します）
②カットした①のさつま芋を 10～15 分くらい水につけて、アクを抜く。
③アクを抜いた②のさつま芋をザルに上げ、よく水気を切っておく。
④分量の小麦粉と片栗粉をポリ袋に入れ、③の水気を切ったさつま芋も入れて袋を振って粉をまぶす。
⑤油を熱し 170～180℃になったら、④のさつま芋を揚げる。
⑥最後に塩を一振りしたら出来上がり。

給食部　小園

後援会からのお願い

　すみれ乳児院が所属する「社会福祉法人　大阪福祉事業財団」は、大阪府下に 24 の福祉施設を持っています。大阪福祉事業財団後援会では、各施設の増改築や新しい施設づくりなどの事業に協力し、会員相互の交流を深めながら権利としての社会福祉の実現をめざす取り組みを進めています。

　後援会では皆様の物心両面にわたるご支援・ご協力を必要としております。
　　＊個人会員　　１口　　3,000 円
　　＊団体会員　　１口　10,000 円
　既に入会して頂いている方は、2026 年度の更新の手続きを宜しくお願いいたします。

　大阪福祉事業財団を応援してくださる方は、
　すみれ乳児院（06-6958-6066）まで。

『すみれ乳児院ホームページ』

@SUMIRENYUUJIIN
『すみれ乳児院インスタグラム』

これからの３ヵ月の行事予定

10 月　あさひ福祉まつり
11 月　親子遠足
　　七五三
12 月　クリスマス会

【編集後記】
今年も厳しい暑さや集中豪雨が続きましたが、すずしい風が吹き過ごしやすい季節になってきました。子どもたちと散歩へ行き、一緒に秋探しをするのが楽しみです。（大守）